

朝日新聞

天声人語

〈英文対照〉

朝日新聞論説委員室編

'83 夏

VOX POPULI, VOX DEI

朝日新聞

天声人語

〈英文対照〉

朝日新聞論説委員室編

江苏工业学院图书馆
藏书章

'83 夏

VOX POPULI, VOX DEI

原書房

天声人語 '83夏の号(第53集)

1983年 8 月15日 第1刷 定価 980円

著 者 朝日新聞論説委員室
訳 者 朝日イブニングニュース社
発行者 成 瀬 恭
発行所 原 書 房

〒160 東京都新宿区新宿1-25-13
電話・代表03(354)0685 振替・東京5-151594

福山製版印刷／佐抜製本

ISBN4-562-01399-0

はじめに

天声人語は朝日新聞の創刊二十五周年にあたる一九〇四年（明治三十七年）の一月に誕生した。これまですでに四分の三世紀以上の歴史をもっている。

朝日新聞のコラムの中では最もよく読まれている。本社の行った最近の読者調査では、朝日新聞の購読者の半数以上が毎日必ず読んでいる。

論説委員の中から一人が専任の執筆者として選ばれ、一人で毎日この欄を書く。原則としては筆者の名前を明かさないことになっている。しかし、文章も内容も素晴らしいことからだろうが、いつの間にか自然にどこからか筆者名が知られてしまう。

これまで最も長い間天声人語を執筆したのは、一九四六年から一九六三年まで六〇〇〇回余を書きつづけた荒垣秀雄氏である。その荒垣氏が、朝日新聞の創刊一〇〇周年記念号（一九七九年一月二十五日付）に「天声人語物語」を書いた。その中で天声人語の性格を次のように説明している。

「社説が『床の間』なら天声人語は『縁側』である。『ぬれ縁』といってもよい。床の

間には近づきにくいという人も、縁側には気軽に立ち寄ってくれる。……天声人語には『見出し』がついていない。どんな記事にも社説にも大小いろいろの見出しがついているが、天声人語にはいつも変らぬ古い標札がかかっているだけで、中味を要約した見出しはない。また文章に一字の余白もなく、最後までギッチリとつまっている。途中に五つほど飛び石があるだけだ。▼の飛び石伝いに話が進んでいく(本書では便宜のため表題をつけ、▼を外してそのかわりに「行かえ」を行っている)。

天声人語は「街路樹である」とも述べている。「枝葉は風にそよいでも太い幹はガッチリと大地に根を張って」「人の往き来をじっと眺めている」「いつも目をパッチリあけて世の中を見つめている」。荒垣氏だけでなく、すべての天声人語欄担当の筆者がこの通りであろう、と思う。

執筆期間の長さで荒垣氏につき、また天声人語の声価を確固たるものにしたのは一九二四年から一九三六年までを担当した永井釈瓢斎であった。天声人語の歴史の中で彼の名前もひときわ重い。最近の筆者としては、入江徳郎、足田桂一郎、深代惇郎がある。そして現在の筆者にひきつがれている。

天声人語の語源ははっきりしないが「天に声あり、人をして語らしむ」という中国の古典から取ったものだといわれている。朝日イブニング・ニュース紙の表題には VOX

POPULI VOX DEI が使われている。ラテン語で「庶民の声は神の声」という意味である。人びとの声あるいは世論が天の声なのだ、と天声人語の筆者は考えながらこの欄を執筆している、というのが私の理解である。

一九八〇年四月

朝日新聞論説主幹

岸田純之助

はじめに

へ一九八三年四月——目次

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
歴史民俗博物館	ほとんど病気	「街頭の断想」	保護鳥の運命	ダイオキシンの不安	伊豆の春	勝手連	緊急課題	堆肥の町	さよなら「快傑黒頭巾」	最後の役者 最後の文士	ウソかマコトか
24	22	20	18	16	14	12	10	8	6	4	2

13	学校内リンチ	26
14	若返り人事	28
15	竹人形	30
16	古代エジプト展	32
17	既成政党批判票	34
18	色の羅針板	36
19	汚い選挙	38
20	緑の国土防衛策	40
*	連翹忌	42
*	当て漢字	43

*

朝日新聞掲載の天声人語のうち朝日イブニングニュースの休刊日(日曜)の関係等で英訳文の無いものを各月の対訳文のあとに和文だけで収載します。

一九八三年五月 — 目次 —

21	歩け、あるけ……………	46
22	モラエスの生涯……………	48
23	所得番付……………	50
24	鯉のぼり……………	52
25	国際ボランティアの父……………	54
26	漂泊の天才・寺山修司……………	56
27	アジア諸国の眼……………	58
28	“池子の森”を救おう……………	60
29	あり得べからざること……………	62
30	賢くやせる……………	64
31	日本研究の灯を消すな……………	66
32	ベニさん基金……………	68
33	地区道路……………	70

34	「おつかない」こと	72
35	ゆたかな街路	74
36	おけら精神	76
37	高校生の歌	78
38	とび出せ「パイオニア10号」	80
39	「1%」と「1兆円」	82
40	常識はずれの退職金	84
41	大地震の教訓	86
42	銘柄米信仰	88
43	軍艦マーチ	90
＊	改憲への地ならし	92
＊	強硬突破	93
＊	残りのすがた	94
＊	鈴蘭のころ	95
＊	新人種	96

省略

一九八三年六月——目次

44	些末主義	98
45	地震予知	100
46	新全国区	102
47	菌を守る	104
48	ニッコリ笑って森を切る	106
49	夏こそお茶を	108
50	薬漬け医療	110
51	フィンランドの負けじ魂	112
52	「三陸へ逃げる」	114
53	尾瀬ヶ原	116
54	皆既日食	118
55	空海と密教の世界	120
56	死のしごき	122

57	おかみさんの一生懸命精神……………	124
58	心の供述……………	126
59	雨の恵み……………	128
60	補助金政策の病根……………	130
61	疎開船 対馬丸……………	132
62	公約のウソ……………	134
63	使い捨てから飢えの時代へ……………	136
64	選挙ポスター……………	138
65	棄権43%……………	140
66	内に発する力……………	142
67	医療福祉の現場……………	144
*	盗塁王の眼力……………	146
*	『ちゃん』……………	147

〈Contents — April, 1983〉

1	April fool, anyone?	3
2	The end of an age	5
3	A black-hooded hero	7
4	Wonderful compost	9
5	Income tax cuts needed	11
6	Hokkaido's 'Katte-ren'	13
7	Spring walk	15
8	Deadly dioxin	17
9	Ibises and albatrosses	19
10	'Random thought'	21
11	Election diseases	23
12	Historical Ethnology Museum	25
13	A disquieting trend	27
14	'Youth is wonderful'	29
15	Bamboo puppets	31
16	Ancient charms	33
17	The 'delicious' green parties	35
18	Profusion of colors	37
19	Votes for sale	39
20	Protect the forests	41

〈Contents — May, 1983〉

21	The pleasures of walking	47
22	Moraes' love for Japan	49
23	Top income earners	51
24	Return of the carp	53
25	'Father of int'l volunteers'	55
26	Death of a many-faced man	57
27	Asians haven't forgotten	59
28	Save Ikego greenery	61
29	'Can't possibly have happened'	63
30	On keeping slim	65
31	Saving Japanese study programs	67
32	'Mother of the forest'	69
33	Too many traffic death	71
34	Silence is dangerous	73
35	More empty space needed	75
36	Tada's 'okera' spirit	77
37	When youth reflect	79
38	Other solar systems?	81
39	Pre-election mirages?	83
40	High retirement allowances	85
41	A country of earthquakes	87
42	How to cook tasty rise	89
43	Yasu bugling the march?	91

<Contents — June, 1983>

44	Concern over trivial matters	99
45	Difficulties of prediction	101
46	The more the merrier?	103
47	Retaining one's teeth	105
48	Is Nakasone sincere?	107
49	The season for tea	109
50	Too much medicine	111
51	Staunchly independent Finland	113
52	Unheeded warning	115
53	Beautiful Oze marshes	117
54	Total solar eclipse	119
55	The sky and the sea	121
56	Hazing to death	123
57	Hardworking Kayoko	125
58	The truth from the heart	127
59	Indispensable rain	129
60	The problems of subsidies	131
61	The Tsushima Maru case	133
62	Of taxes and coconuts	135
63	The age of disposable goods	137
64	Uninteresting election posters	139
65	43% abstention rate	141
66	Okamoto's inner strength	143
67	So much red tape	145

英文訳注……………巻末 2

英本文の続き……………巻末29

写真提供／朝日新聞社

4月 April

◆ ブナの巨木 — 八王子市高尾山で